

令和4年度 事業所自己評価結果の公表

公表：令和5年3月31日
アンケート期間：令和5年2月17日～令和5年3月7日

保護者等からの事業所評価の集計結果

保護者等数(児童数) 14名

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースは十分に確保されていますか。	12	1		1
	2 職員の配置数や専門性は適切ですか。	14			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっていますか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていますか。	12			2
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていますか。	12	1		1

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていますか。	14			
	6 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていますか。	14			
	7 個別支援計画に沿った支援が行われていますか。	14			
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されていますか。	13			1
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がありますか。	5	1	3	4

事業所における自己評価結果および改善内容・改善目標

回答職員数 7名

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		・環境…壁の少ない部屋で棚等の大型家具で部屋を区切るのは難しいため、バーテーションを使用している。また、色々な高さ、形を準備して、適宜場面に合わせて使用している。 ・体制…集団のメンバーを工夫して個別的な関わりが必要なお子さんや、場面に人員を配置できる体制を職員間で検討している。	・収納の仕方、収納スペースを見直す。戻す時にあった場所に戻しやすいようにする。 ・大人(スタッフ)による環境設定で、お子さんにわかりやすい環境を提供できるようにすることは当然だが、お子さんの状況に合わせて大人による構造化された環境設定」をフェードアウトしていくことも意識にいれ、適切な環境設定になっていないかどうかを常に意識できるように取り組む必要があると考える。
	2 職員の配置数は適切である	7		・お子さんの発達状況でグループを分け、活動内容などにより、部屋のスペースを入れ替えて活動を行ったり給食が食べられるようにしている。スタッフにとってもわかりやすく、また動きやすいと思う。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		・必要に応じてバーテーションを使い、子供に応じた環境設定をしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			
業務 改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		・タイムスケジュール上、目標設定と振り返りに全ての保育士が関わって日々検討するのが難しいため、改善案を検討したい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		・常勤の先生が毎日振り返りを行い、改善点はすぐに改善している。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	・保護者様からの意見は真摯にうけとめ、自己の教育を見直すように心がけている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	3		

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成している	7			・毎日、短時間でも全スタッフで療育内容の確認やお子さんについての申し送りができる時間を確保できるように仕組みの整備をする(朝レのようなものの導入検討)。 ・アセスメントツールの整備(どのような内容でどう使っていくかは今後検討していけるとよいと思う。担当者によって評価にばらつきがないようにするため、誰にでもわかりやすい評価にするために必要ではないか。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		
	11 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	・日々業務日報がスタッフ間に共有されるので、わかりやすく、変更事項があっても困る事なく勤務できていると思う。 ・その子に応じた目標を設定して活動している。 ・スタッフ同士でお子さんの状況を常に共有できるよう、コミュニケーションを取るようになっている。	
	12 個別支援計画に沿った支援が行われている	7		・支援の進め方が変更した時はすぐに職員間で会議や日報などで共有している。	
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	7			
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		
	18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		
	19 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	3	・日々の活動は写真や動画に撮るようし、可能な限り保護者様にお見せしながら、日々の様子やできたこと、課題などを説明するようになっている。 ・最近の様子などこまめにスタッフ間で共有するようになっている。	
	21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2	・建物内に法人姉妹園のときりぎずたまプラーザ保育園があるので、児発のスタッフも保育園のお子さんや園庭や玄関などでコミュニケーションをできるようにし、教室利用のお子さんが関わりやすい雰囲気を作るようになっている。また、公園の帰りなども困っていたら声をかけて、一緒に帰るなどその時できる方法で関わりを持つようになっている。	
	22 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	・関係機関や相談支援事業所との連携が十分に実施できていない。	
	23 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	・保育所等訪問支援事業の導入、および発達検査を施設でも受けられるような仕組みの整備を通じて、より外部との連携をはかれるようにする。	
	24 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	・利用児の併用している他園、療育センターとの連携はできているが、地域の関係機関とは連携をとる機会がない。同法人の保育園でも交流の機会も少ないので、一緒に活動を行うなどできるとよいと思う。	
	25 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	・常勤の先生がお迎えの際普段のお子さんの様子やご家族の状況をヒヤリングし、必要があれば関係施設と連絡を取っている。	
	26 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している	1	6	・保護者さまとの毎日のフィードバックを通じて、家庭や母集団でもお子さまに必要な支援が受けられるよう、お子さまの状況や支援方法・関わり方の工夫を伝えるように心がけている。	
	27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		・降園時のフィードバックに時間をかけて保護者様からの相談を受けた上、解決策を一緒に検討したりしている。	
	28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	2	5		

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
保護者 への説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされましたか。	14			
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされましたか。	14			
	12 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていますか。	14			
	13 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われていますか。	13	1		
	14 保護者同士の連携が支援されていますか。	3	4	2	5
	15 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13			1
	16 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていますか。	14			
	17 定期的におたよりやホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果等を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	1		
	18 個人情報の取り扱いに十分注意されていますか。	13			1

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
非常時 等の対応	19 防犯対策、感染症予防、非常災害時対応方法について、保護者に周知・説明されていますか。	13	1		
	20 新型コロナウイルス感染症対策は徹底されていましたか。また、緊急事態宣言発令時の対応について等、不安はありませんでしたか。	12	1		1
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	10			3

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	1		
	23 事業所の支援に満足していますか。	14			

〇この「保護者等からの事業所評価の集計結果」は、保護者等の首様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者 への説明等	29 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	30 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	7			
	31 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	32 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	33 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		
	34 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	35 定期的におたよりやホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	36 個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	37 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	38 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時 等の対応	39 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	2		
	40 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			
	41 新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、新しい生活様式に対応した活動内容・支援方法について日々工夫しながら取り組んでいる	7			
	42 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7			
	43 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			
	44 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2		

事業所における分析・協働・改善案の検討結果

事業所内での分析	分析・検討してみても・・・	事業所の改善への取り組み
【保護者様評価・職員自己評価の共通点】 ・支援計画に沿った支援がなされている ・子どもの様子が保護者と共有できている ・子どもや保護者との意思疎通ができている ・外部連携（交流）が不足している ・保護者間の交流が不足している	事業所の 強み ・保護者との情報共有、関係構築ができている ・子どもが通所を楽しみにしてくれるような環境になっている ・個別支援計画や支援内容が適切に提供できている 事業所の 改善点 ・外部機関との交流がなされていない ・緊急時対応のマニュアルの見直しや訓練が不足している ・非常勤職員の日々の記録記載の時間、その日の全職員（グループ内）での振り返りの時間が確保できない時がある	・といるきつずたまブラーザ園保育園と交流できる行事や活動を計画する ・保護者会を開催する 緊急対応他安全衛生など各マニュアルを見直し、計画、訓練を強化する ・全職員の日々の記録記載の時間、その日の全職員（グループ内）での振り返りの時間の確保ができるよう休憩の取り方や職員配置を工夫する